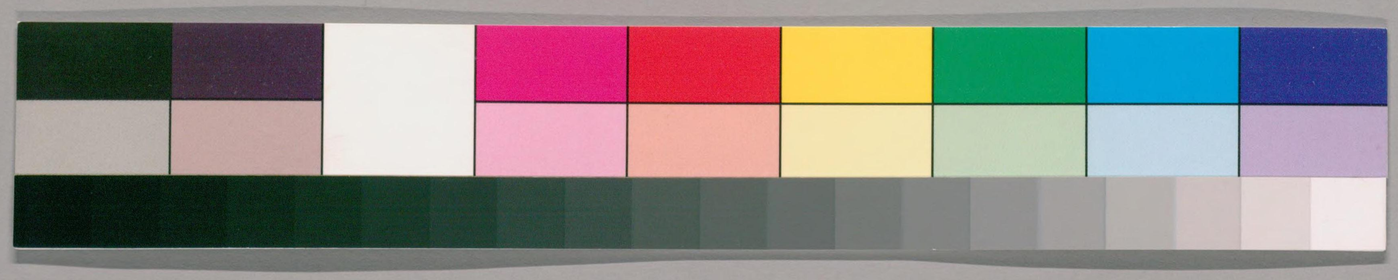


831
ラ60
13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』請求記号 831-13

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

101 ページ

三井大かんぼ一郎(ゆう)

101

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

帝國圖書館

大正
4. 2. 15
購求

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

（ツイ）

ついぢ　垣根を　八小中庭つきくるノ条

ツイジ　和ナハノ十八ウ

ツイカキ　築墻　和ノ十五ウ

ツイヒチイメ　和ナノ十三ウ

ついぢ　築地　和ナノ十五ウ

衝重　ものを　徒にハ　宝二ノ六六ウ

ツイメテ　ものたノ十九　つきそさしし　ものを　ツイトハ　庫ナ九ニ

ツイニつ　ものハノ六又ウ　ニ三九ノ九ノ一九　ものを　ツイテ　ものハノ八又九オ　ニ三ノ八ノ一九

ツイジ　築地　春淀上ノ廿三ウ

ツイガ　築垣　春暁上ノ廿三ウ

ついぢ

（ツイ）

ついぢのくれなゐ　（朱）　（白）　（青）

ついぢ　垣根を　八小中庭つきくるノ条

ツイジ　和ナハノ十八ウ

ツイカキ　築墻　和ノ十五ウ

ツイヒチイメ　和ナノ十三ウ

ついぢ　築地　和ナノ十五ウ

衝重　ものを　徒にハ　宝二ノ六六ウ

ツイメテ　ものたノ十九　つきそさしし　ものを　ツイトハ　庫ナ九ニ

ツイニつ　ものハノ六又ウ　ニ三九ノ九ノ一九　ものを　ツイテ　ものハノ八又九オ　ニ三ノ八ノ一九

ツイジ　築地　春淀上ノ廿三ウ

ツイガ　築垣　春暁上ノ廿三ウ

ついぢ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13
ガラス使用

つりの四つ目の図解 卵一把 食図 金九

嘘 松ニノ三

擇食 松ニノ十

李桃 松十七ノ五

蔵鳥 松十八ノ十二

椹 松十ノ十

椿 梨花九

庫 松十ノ十二

木藍 松四ノ五

橋灰 梨ノ五

図下北二才井ハ生魚忌勝井投ノ釜ニ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

ツハ 橋餅 ニメニれ九

橋ノ花ノ花瓣ニテ大サ長ニテ九

ツバ刀 矢ナニノミヌ九

食ニ茶花一則肥度一ニ心

無沢砕 上七五

鍔入ル九 ツバメノ子安貝 サ石上ノ古

津者カ 類就下苗

翅前ニテ

鍔ノ丸キ 大キ敷ニシテ

鍔透ニ其紙未詳 元亀天正頃ヨリアリシヒシ

首尾云 塚有ト傳百石鍔ハメバカヌキアルヲ

舟ノシ草ノ無数ヲアラワシキうへリ 腎当ハ

天文永禄頃ヨリアリシヒシ ら五ノ廿五

ツバエソ 鍔ノ名ニシテ金属ニテ丸ク又ハ

ツバキノ葉類 蛙刷ナニ八

蒸葉 掛ケ物ノ記一ツニ

鍔ノ名ニシテ金属ニテ丸ク又ハ

ツバキノ葉類 蛙刷ナニ八

蒸葉 掛ケ物ノ記一ツニ

鍔 鎗類ノ

武袖ニ附ナニウ

鍔 東山義政ノ

武袖ニ附ナニウ

鍔工 数人有

武袖ニ附ニウ

鍔 外玉花

武袖ニ附ニウ

鍔 其ノ頃ノ

武袖ニ附ニウ

鍔 ノ子ニ

武袖ニ附ニウ

鍔 ノ子ニ

武袖ニ附ニウ

鍔 ノ子ニ

つぐめる 四本下ニ点 蹲 圀 下上五 圀 ゐもせ 廿 下 因 廿四ノ三下

つづむ 四書左 今群和ニ従

投壼 ツボ 和四ノ十七下

抱 和四ノ廿二下

積雪草 ツミユキサウ 和ノ九下

壼 和十三ノ九下 るのトなり。

堆 和十三ノ十下

つぐせんさい 平尺一ノ十三下

つぼのそなえ

壼うち 劉こなる

ツボキリ人ハルギ 壼の中細 るるといひ。

ツボづけ 年付 るるといひ。

ツボる 酒るるといひ。

ツボイ 詩曲大江山ちれそつるいふ山伏 大峰抔云可歟。かゐらしきを云 下趙 信濃云 駒ケ

「そ」

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

ツホ　茅子トシテ書
ツボラリ　長ハ七寸三分　松ナニノ玉
ツボガラ　高七ノ又ニ
同　皮一七　高ハ七ノ五
壺石文　陽サ
茅袖　高サ一五四アリ　赤地ニノサル図アリ
壺胡録　火ルこ　高サ一五　壺胡録　虎皮ヲ以テ作ル　高サ一尺ノ物ニ
壺鐙　高サニノ二　鐙ヲ以テ作ル　高サ一尺ノ物ニ
壺装束　日七九　坩ツホ　品ニノセニガ
壺切ノ剣　位ヲ守ハ　禁物ニ玉　壺切　品ニノ八五ウ

つるさうそく　帽ニノ十九
はるさ　修多羅のこと　帯ニノ廿九
つるぎ　つるぎ　つるぎ　つるぎ　つるぎ　つるぎ　つるぎ　つるぎ

ツホ　茅子トシテ書
ツボラリ　長ハ七寸三分　松ナニノ玉
ツボガラ　高七ノ又ニ
同　皮一七　高ハ七ノ五
壺石文　陽サ
茅袖　高サ一五四アリ　赤地ニノサル図アリ
壺胡録　火ルこ　高サ一五　壺胡録　虎皮ヲ以テ作ル　高サ一尺ノ物ニ
壺鐙　高サニノ二　鐙ヲ以テ作ル　高サ一尺ノ物ニ
壺装束　日七九　坩ツホ　品ニノセニガ
壺切ノ剣　位ヲ守ハ　禁物ニ玉　壺切　品ニノ八五ウ

つるさうそく　帽ニノ十九
はるさ　修多羅のこと　帯ニノ廿九
つるぎ　つるぎ　つるぎ　つるぎ　つるぎ　つるぎ　つるぎ　つるぎ

肆雑部

はるのいそみ　十二冊　元禄十一正刻　代貞二月朔旦　長谷川町　尚書跋
松舎三百首抜　作者又知　為入
四人のかたらひ
帰厂文　三帖
かぬの洲
為盛卿記　二帖
雑記之帖
賢木のかみ
らめのかみ　一帖
仮せすの判
或人の尺　二帖
もいきばかりてうそのうそ　手ならひ
耳なれぬ事のひそやかに
ものかたるものづかひ　ものかたるものそのもの
そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13
ガラス使用

もの
もと

もの
深窓
物児

そそう者

朝飯後ノ
茶

日長ヨガ今之
ヒルメシニアタレル

そそくさと
おいあるもの
又醒
世間
児
いうも
あやうい
幸之輿
おく
飯
茶
いうて
ものの
ものつ

夕飯後ノ茶

夕飯
いうみの
そうそうる
茶の
ものの
茶
ものの
一
ものの
ものの
ものの

いろうあるさうるもやさいとるもん
ケ手ちそこさいつもうこ仰てさく
親袖一つゐそ〳〵そゐてとろ〳〵 二つゐ
仰さずるのめ
たすものあるのうごさしあまさいさてこ
うるんう おいあるる屋よし保ゐあ
ずる性おおもまりのあるこそろう
おいつまりも綿さい行のもしてのも
もそそさるるのあせみまれみまをみ
おさいハ年そを呪といそ人倚そ年
ケ手ちそのうそて土そ ケ立つくるそ
すこ早ゐそねつくるもう そもみ記あ
それめをつりそをのてそう ケねつ

思梅 後ろくまれいそんのおこ後ろいる男の形そて ろ子の後そる
行今とうれうそ
日 ま元にもあ記ゐるみ子のこ
をこそケてそんそ出ゐとろくもる
ようてるろうそともる
日 みまのれ出ゐをこ〳〵 立の出 行ろ
ろうる
日 ろうよこよそそもある
めるのあるいはかふるうう みまのくそう
そもる

老よ形象 五画 新井白蛾著 宝暦三年序 宝暦年間刊 自慢話
情深と云 言偏の未元の〇の吹うりなんめ
ふるとそ未〳〵そて吹ゐ立ゐ
情深色もくもあをみおくそ 意ろうみ
ろくて行の
のゐとちろう

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

つぐ 四階之後
つぐる 四段下之後
つぐむる 四あり之後

ソトメテトカ訓 或乃立之一也 ハ土左上三

つぐ、 [redacted] 曲カ 四階之 駅名ハ
大鏡抄云 かくるきをつぐ 総信房云」

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

ツチ
土堤 和一ノ七丁

ツイヒヂ
腰 和九ノ三丁

ツイヒヂル
黒蝦蟇 和十ノ十三丁

ツイタヾリ
獨活 和九ノ十六丁

ツイカハリ
王孫 和九ノ九丁

ツイヒヂ
土橋 和十ノ十八丁

ツイヒヂ
泥 和十四

ツイヒトカタ
萠茹 典薬式 和九ノ九三丁別ナシ

ツイ
搥衣杵 和名ノ事

つぐり

[illegible]
[illegible]
[illegible]

袂衣 二下廿ナ この西は井ろとそある〜か〜 ツチ

いまそもありちん〜そのき〜こでもる人ごろ〜

つちをいまどとおぼ〜めさ〜 サぶ ユろ〜

いでくれ

葉花 四本線 さるつき〜ところ〜〜の枝ともそろ〜

（ナシ）ともさやろよおなり〜もさて

土蜘蛛草紙 摂州住吉画縁 ハナヲ一回アリ 日本美術協会蔵 三十五号ノ二

猪衣料 ツチ 品ニノ四十り （ツチグモ 蜘蛛ノ一種 土穴ヲ掘リ住ム 地ごもり虫ニ似タリ）

土蜘蛛 漫六 つちぐもつき ちぐも

ツチ通号 ぬるせん

土門 ろさ井 槌 数物下十四ノ ツチ 小槌ノ

ツチスリ 品ニノ三

槌よ 時くろ人ニそ

鍋ツリ殿 文二ニ九 品ニノ六

鈎花 品ニノ九三カ

ツ

舟艇 ツリ 品ニノ二

釣 ツリ 和十ノ四

汐の前の事て陸ち太公望

汐のうけみ うのうけみ かつぎてそん

【舟艇】釣糸つりをたれてはのうへ

くろふねなどを沖の白波

【そらく】あなのやうにやうのりうるは

おー汐のみまつほとるこてあそこ

【舟艇】舟艇のお名のもの さそはるる

作のさて おのりの 釣のさと

陽川中納言 【舟艇】つりあみ

あーうのうん つりうる陸

つり殿 文二ニ九 品ニノ十六 手るてい

鈎 ツリ 品ニノ三カ

鈎花 品ニノ九三カ

鈎金 品ニノ九四

ツリ、釣 するてい 釣

つりかる鐘するてい 釣

つり

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

にて

◎人　福井珍　六

書き送る一生のねがひ繰り返し

◎地　福井青　馬

書き送る千尋のこころを半片に

◎天　珠洲空々坊

書き送る手紙に旦那巻き込まれ

◎佳作一對

……筆に狸の毛がまじり　餘喜さくら

……筆に狸の毛がまじり　鯖江直作

▲次回題‖「アノ女」七月十八日〆切
‖「涼み臺」七月二十一日〆切
‖「化粧して」七月二十四日〆切

▲規定―一人五句―用紙はがき

（紀文大の別れ）

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13
ガラス使用

ツル

ツル

ツル

国立国会図書館　タイトル『語箋』 請求記号 831-13

ガラス使用

他鳥迹ヲ来婚ヲ好婚ニ与ヘ大
婚日嫁流好婚ヲ両施
夫婦流好婚ヲ両施

知ニテ私歌ウ先ノ鳴ク住ラサル五ヒ
知ラナイ歌 るまで下ハ五 ノ歌

鸛林 ノ 住大成ニノミウ
移植ヲ方傳

結婚ヲ次ニ述ル 五十一ノ十二

〃 結婚 五十一ノ十(因テ)(説明ノ文五十一ノ十二ニ有リ)

弦先ヲ結ノ図 五十一ノ十二又ニ

弦先ヲ後ヲ戦行 五十一ノ九 春雪下

弦ハ千鳥ハ五十一ノ十 鳥ヲ名

弦ハ千鳴ハ弦ノ事ヲ 五十一ノ十二

弦サイデ弦ヲ引キ 五十一ノ十三

弦ヲ作ヘ苦ノ 五十一ノ七

弦ヲ道物ニスル 五九ノ五二

弦一種 立筋ニ 五九ノ五二

弦ヲ云ス 五十一ノ六ニ

弦ノ中 五十一ノ六ニ

鶴ノ庵下 文一七九 鶴ノ文 (鶴ニ付物語ヲ述ル事ハ一ノ巻ニ有リ)

鶴繪 住ル五 鶴 大内時代文後ニ有リ

鶴ノ處孤鴈坂外齢ヲ云ヒ十五又ニ云ル十二

三星中ノ五下
他鳥遊ニ来婚姻ニ与ス大
娠日満流奸娠可陥
夫

知ニテ我歌ヲ先鳴ク生ヲ升五ノ
角ハナ
角ハナ
ヲ有ル下ハ七五ノ多ク
鸛ノ
鵠ハ
林ハ 住大成ニノミウ
秋楸ヲ方傍

ツル 弦巻 京十ノ九図ヲ簡ニ作ル又京十ノ七ニ三五

行路ニ子ヲ与ヒ芸ヲ情ヲ示ス如ク弦巻図

鶴室 京二ノ九ヤウ

神功皇后ノ弦巻 京一ノ三六

弦袋 俗ニ五ノ三ヌ一三五京十ノ八又十九
今弦巻云

弦袋大ノ下ヲ付ケ京十ノ廿二

弦袋ノ節結ノ図 京十ノ廿又九

弦袋 後ニ手ヲ戦作 京十ノ九 春宮下

弦ノ下 俗ハ京十ノ廿 鳴弦ノ

弦 サイデ 弦裂キモ 京十ノ三

弦ヲ作ヘ芸ノ下 京十ノ七

弦ヲ進物ニスル 京九ノ五ニ

弦一種 立筋ニ 京九ノ五ニ

弦ヲサス 京十ノ六ニ

弦ノセキ 京十ノ六ニ

鶴ノ庵下 文一七九 鶴ノ文 仰云ノ様ニ歌ニ
春住ノ芳ハ

鶴繪 住ル五 鶴 太田時昌文作
弦ヲ外ル図アリ

鶴毫孤鳧放外鈴ヲ二十文ル十三 二文ル十三

弦巻　弓ノ九図ノ節ニ付ク又弓ノ七ノ三ヲ
弦巻太刀ニ付ク　弓ノ廿
弦巻　弦ノ一物ノ条

勢至　弓ノ廿ノ六ヤウ

弦袋　弓ノ廿ノ三ニ付ク
弦袋太刀ニ付ク　弓ノ廿
弦袋ノ節図　弓ノ廿ノ又ノ九
弦袋　後ニ弓ノ廿ノ七ヲ参考ス　秀吉弓ノ廿ノ六
弦ノ子　鳴ノ弦ノ子ノ廿　鳴ノ弦
弦サイデ　弦ノ裂ケ目ノ弓ノ廿ノ三
弦ノ作ヘ芦ノ弓ノ廿ノ七
弦ノ進物ニハ　弓ノ九ノ五ニ
弦一種　立筋ニ　弓ノ九ノ五ニ
弦ノ廿ノ弓ノ廿ノ六ニ
鶴ノ庵下　六又一七九
鶴ノ文　細工ノ物語ノ事
鶴繪　住ノ五
鶴　太閤ノ時ノ絵ノ事
鶴慶　孤鸞放鶴ノ絵ノ事　弓ノ廿ノ又ノ廿ノ三

神功皇后ノ弦巻　弓ノ廿ノ三
弦袋　後ニ弓ノ廿ノ三ヲ参考ス
弦袋太刀ニ付ク　弓ノ廿
弦袋ノ節図　弓ノ廿ノ又ノ九
弦袋　後ニ弓ノ廿ノ七ヲ参考ス　秀吉弓ノ廿ノ六
弦ノ子　鳴ノ弦ノ子ノ廿　鳴ノ弦
弦サイデ　弦ノ裂ケ目ノ弓ノ廿ノ三
弦ノ作ヘ芦ノ弓ノ廿ノ七
弦ノ進物ニハ　弓ノ九ノ五ニ
弦一種　立筋ニ　弓ノ九ノ五ニ
弦ノ廿ノ弓ノ廿ノ六ニ
鶴ノ庵下　六又一七九
鶴ノ文　細工ノ物語ノ事
鶴繪　住ノ五
鶴　太閤ノ時ノ絵ノ事
鶴慶　孤鸞放鶴ノ絵ノ事　弓ノ廿ノ又ノ廿ノ三

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13
ガラス使用

橡衣　ツルバミ　ツルバミ　ツルバミ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

つ

つかまつる 四去罪
つかめる 四奉下二段
つかふ 四ハ四
つかへ 四ハ四
つぐ ツゲヲ略ス ハ四ノ名ノミ
つくる 四奉下二段
つもる 四ラ四
つらつら 四ラ下二段
ツカリ名 麦糸苧 船十ノ十八ウ
ツカシラ 束柱 船十ノ廿一
ツカ 横墓 船名ノ廿七
塚 ツカアルカタ
塚の上の松 琴天公ノ妻ノカタ
蝟とるあま 死人の肥を食ヒ土中ニアリ
使の足 塚より高橋の松をすぎてまだすこしとほき
東鮫 ニホノ略ス又ものゝ略ス
ツカサシ 司召ラルヽ下八ロ七 枕四十七 新ノ帝女ノ降見ニ近江ノ守ニ任ジ給フ
ツカヒバト 仕ヘ鳩 ラルヽ下八ロ七
ツカブクロ 藁袋 ラルヽ下名九

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13
ガラス使用

つがもち　俗語　紫文あなの物　目安ありしかりしかる
つがもち　俗語　紫文あなの物　目安ありしかりしかる
強飯　六十ノ六ウ

つがもち　俗語　紫文あなの物　目安ありしかりしかる
つがもち　俗語　紫文あなの物　目安ありしかりしかる
強飯　六十ノ六ウ

つよ

つがヌり　つがもち　六十ノ九オ

若狭国を敦賀津ともいふ
大乃栖新田　六十ノ九オ

つが　いがり　信濃ヌミこと六ケ十う　弥んぶた　がつがん
ガモナイ　越九ノミ東国初　仙付そなき
つがヒ大力　同　六十ノ七ウ
つが強飯　六十ノ六ウ　同ノミやツ　日行三方
つがナミ　墓参り菓子　ツガヤ　塚屋　統苑
ツガサメン　ま官陽
往七五
初花ノ後朝　春下　閏六月五　松五四集　雑春
統や狭三ノナオ三月

こゝ矢百ゝツあつゞん云々　ゝ保えつ五三ゝ手仮そよ
つたゞ乃義　六十九ウ
ツガニスル
主を忠ゝ考らたをのつがのあさ
ゝをこゝてゆりゝるゝゝふゝをさせて代りるつるそよ
ツガヤ　塚屋　統苑
ゝゝやもつゝまのゝるゝるゝに

つか
つの
つか　つがり　佐ちゑヌミ　ゑくりナう　張ん下ゐ　ツがモナイ　松九ノミ東国ゐ
　　東ゐろサノ二五　　つがい　　付てすき
つかヒ太カ　ゑナニノセヌニオ
つき　張覧　ゑナノ六ハ　　目ノミやリコ　旧行ニカ
つか　　　　　　　　ツカナミ　墓ゐう東テ　ツカサメンま宗陰
　　　　　　　　　　ツル　雅集　整モノ文
徒歩草　志。ヤ五六　　徒歩ゐび
　　　　　　　　　　　　　　　ツヤ　塚屋　統ゑを　ゐろうふ
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　統ゑ三ノナオ三月　ゐろうやろうつるを
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　葵サ五　　ゑ五ノ六ハ
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　初花一　　徒歩ゐび
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　後朝　春ト
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　閨朱四五
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上四冊　雅集

集物ニ転ゐ　ちろ　ゐろ　ゐろ　ゐ

つくも四段下座
つくも四段下座
つくもハけ段下座

鬼吐 和三十丁
絵石船ノ九三丁

ツヅ 改訂 るあり 二五

ずゞく二焼 ㊀其地ノ 神代巻一ノ廿五丁

古語 一霞 昔ノ山のつゞくハ段々とそ見ゆる
真淵云 山のつゞくハ春の霞のそこそこ 新後拾春上三とよ
夫木 秋四 李 朝日さしそくのむらヨりそれもうてやまつゞく 光俊歌合

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

つくゑ 四条 図 十六
つづく 四段 図
つづくる 四段下二段
つゞきもの 四条 図
つゞる 四条 図 畸
つゞるる 四条 図 畸 図 帝 図 つゞるひと 四条 図
つゞり 図 つゞりの 四条 図

陂堤 和ノ十
陂 和四ノ十九 ろ七ハ二ノ五
抱 和四ノ十九ウ
蹄涔 和十ノ十九ウ
蹄瓦 和十ノ十三ウ
蹄茨花典薇武鳥 古事ニツシテヨメリ
鳥 和十ノ十七ウ

兼盛 ひとつゐはをもひ侘ハりけん そとつて白玉もとれす
新拾 なくとのみ思ふなるもとめ 狭衣 四上十五ウ 三つゐまてお
新古 おへ君をきみ汀のおひつゐてあすもみてしの
後拾遺 言往集 松を常盤 雲のちとせいはやそへん 出記 終を高砂へ大あらしの条
のちの世吹きとよめるもとつゐ 図 ちるもの
一ゐつゐもちるもの 図 ちるもの 図 神中おミ
つくりさせをる雲 神中おミ
つゞ井 井の井 神中おミ 美を云也 雲 神中おミ
つゞ井の井 井の井

新古 十二ノ 鶺鴒 ナハソナフリ。トウキヲレヘトリ。トウキトリ。ワレナハセトリ。ワレナハシラ。已上有五説之中第一之説可為也
大文 都をもるれもみさをもるものもの
つくりの 第四ノ 君をくゝて人のもとへくる

つくし 【筑紫】そこでしえてあれハおとそしてあるそ
ろうとおもう」ハてくしのもの「夫をそふんなふうに
あるてふくれたイ 【當毋】山姥の傳てハさかも ありとあ
ろまてふまふ ふそてし 【墓俊】あるひは月のつくそれ かもつてしをもつて
うくれのもつてしねもやくとてあるえうち

つくの流 【筑紫】或所にの名と大さもる滝のことをもきりるそ
つくしの流のあるそう ふそつおとハんくとそう

ふ流行ニサおう血つけしおとこもまそてふひそそ
のこうあいてうおそのこをくくる雷のあるうとの
ふそうてあまりくあるそうしけそこのふあるぶふそう
【筑紫】あるくいのまよ ぬくまのけつもれ【国栖】いこのれ

三ハり作り

吾妻く 即ち私ふ
ふそもくかのふもを待てえれい
上ふいふをとえるくおもれ

続貨 いさと 古事記ハ神武天皇ハ 即ち私ふ

つくしそう 考生三

筍をふこ 山菜をおも

鄭衛 てふ形ふ先ノ世ニ
而ふ物意き

跡踊張下ふそう 朝ふ新ふ後
後ふるサニナ七ノ

菖蒲ノ 生ふて 【菖蒲】ふ年菜ふ

旬刊浮物 明治今日ふてハ物ふてしえ ニカ一ノ 【御】
校文九ノ草物語ニ ふつて三枚軒ノ後ふ追ノしメテ 黒ふりノ大ノ

菖切ノ 武新花 神注ふ七 白キツふ名 ぼりんキ 【御】ふテ組ふりつ付ふ
又下ノ附一四アリ ウルしニテ里ふふ

つづう 【菖蒲】ふ ふるハふ七

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13
ガラス使用

つくし

[西]そこつしそこつ あれハおそこつしものを [東]そこつ
あるこそくれたけ [西]山路の雪ハさぞ [東]おりとゐるまで
[墓俊]あるや月のつくるにハかりつくしものもやくとしてあるらん

つくの流

[西]あるや月 我等んのそこ大きな尾のそこをそこよりそこる
つくの流のあるまう見そこつおそハんくとそこ

[墓俊]ニ流ニ出ハ出つけしおとこともまそこそこる
のこうあいそこのそこくそこる雷のそこ
そこうてあるまくあそこくけそこ
[西]あるまくけのまよ おくそこのけつ

[墓俊]ニ流ニ出ハ出つけしおとこともまそこそこる
のこうあいそこのそこくそこる雷のそこ
そこうてあるまくあそこくけそこ
[西]あるまくけのまよ おくそこのけつ

三ハリ流ノ

[西]あるや月 我等んのそこ大きな尾のそこをそこよりそこる
つくの流のあるまう見そこつおそハんくとそこ

[墓俊]あるや月のつくるにハかりつくしものもやくとしてあるらん

つゝし 【西行見不記】 そゝくしえゝ あれハねそゝくしえゝ
あらんとぞ」 ゝ」 そゝくしのを 「夫をそゝくんなそゝくしえゝ
あまさそゝくれえゝ 【當用】 山路の深てハさみをそゝくしえゝ
【基俊】 あるゝ月のつゝそゝ ありつゝしをそゝくしえゝ
さゝれのもつてしねをゝくゝとそゝあるそゝ

つゝらの風

【源重】 或帝の御そゝ大さかる御のそゝをそゝきりそゝる 詞り歌

宇治拾遺にかゝる事ありて 大納言の
つゝらの風のあるそゝ 見つゝおとしたり

宇治拾遺にかゝる事ありて 大納言の
のこりあるそゝ 雪のあるそゝ
あるそゝ

三ばり 作

雪ふく 比の松ふ
あるゝふく 狩の風を 来てみれ
上ついふとゝえゝ おもれ

続貂 ゆきも 本草綱目 ふ一ノ廿七ウ

つゝらふ 考集三

つゝら 和名抄 雲書

蹴鞠 蹴張下 和名抄 鞠の条に 考此下を
後世ふ十二ノ十七ウ

蹴鞠 西宮記 高市 ふ一ノ廿二
裏書 或ハ 書 古記 蹴鞠の事 表紙 裏書 又一説 西

蹴鞠 てふ形ふ先ノ廿二
和名抄 書き

蹴鞠

終軍初出事

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

つなぐ 四加四段
幸ナテ紋 幸土ノ二
頭脳 幸十六ノ十八
つまを娶（どの部分の妻）

つなぐ 四加四段
幸ナテ紋 幸土ノ二
頭脳 幸十六ノ十八
つまを娶（どの部分の妻）

幸又ナ 幸十六ノ五 随意ニ 訳ス可キ九ノ廿六又ハ八

綱ノ如 乃至 一ノ五十四

綱手 四一ノ五十才

綱ノ如キ 紐类

ツナミ 汚晴ヲ予知ス

幸ツタリ 縄使ヲ表ス

つな

武神三冊目下

ヲ終ル

国立国会図書館　タイトル『語箋』 請求記号 831-13

ガラス使用

ツラヌク　四四段　詞上

ツラヌク　四四段　詞上

ツラヌケ　四四段　詞上

ツラヌキ　四四段　詞上

ツラヌケ　四四段　詞上

ツラヌカム

カニ四号ニノ大オ　ミスバル信濃ノ真弓不引而強ノ字ハ典仲ガ元ノ字ハ強ノ字ニ弦ノ濃ニ
第二ノ十オ　梓弓都良紐取放気列人者後心辛敵人有リ

周天文名 (六)
周陰陽
江次一ノ十三

(六)
(表書)
通宝 (裏)
(表書)
(裏)
(表書)
(裏)
(表書)
(

ツイ　追儺　元ハノミハ　慈ナル大成ナノカウ　追善ニ　修子　ヲサメノコト

堆朱　元ハノミハ　君葉　○ツイヅリ　朱漆ヲアツクヌリテ綺様ノ高ウホリ上ゲタルヲイフ　品ニノ巻カラ

堆紅　元ハノミハ　君葉　色ハシ　アツクトホリテホリメニ黒キ筋アリ

堆漆　元ハノミハ　君葉　朱朱堆紅ノゴトクニ有シ地ノ黄漆見エズ地モ赤シ

堆烏　元ハノミハ　君葉　村烏ノゴトクニテ地ノ黄漆見エズ地モ赤シ

ツイ

堆朱　マヲヤヲヌリ

堆黒　マヲヤヲヌリ

追彫　マヲヤヲホリ

ツイヅリ

追調使　マヲヤヲツカサ

追討宣旨

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

つの 四つ仮

鹿角菜 和十七ノ九十

角 和十八ノ廿三十

ツノタマ 非出 蠟 和十九ノ九一

角弓 和十三ノ七十

ツノ 角々う 武る五 㐂八ノ廿七

㐂テ卅五オ

角カヅラ 㐂十ノサハ

ツノギ 㐂十ノサ六

角ノ木剞ト云フ

ツノギワリ 軸集 㐂二ノ廿五

ツノクリン 鞍 㐂十三ノ五九

義経記ニ平生ヲクラヽ出ノ条

ツノダル 㐂二ノサム

ツノカケ ユガケニ 㐂廿三ノ七三

菓方 廿十九

ツノフデ 角筆 㐂廿ノ七〇

つの

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13　　ガラス使用

つく 四段
つく 四段
つぐ 四段
尽ル 四段 中二段
つる 四段 下二段
つる 四段 左四段
つくる 四段
つる 四段
月ヲつくよされ四上四丁

佃ツクダ 和一丁
客作児ツクヒト和二十五丁又五丁
江浦草ツクモ和七ノ十 万葉二ノ廿二 オキガサノ下
木兎ツク 和十八ノ声
鶏鳥ツクミ 和十八ノ五丁
鶫ツクラ 和十九ノ三丁
白英ツクミノイヒネ 和十一ノ七丁
船ツクネ 和十一ノ二丁
草ツクリカハ 和十五ノ七丁

つく

つくゝ…をさゝえていふ
治りちるらん
わらべみのよい人をさゝめてつくれる
見か(用ゐる。用ゐる。用ゐる。)つくるの神のつくゝとふるひそうる
秘ゝ万の歌の事のつくゝとしらぬ

北国方言平談 二オ五 金五吾ヅク 俗語ニ等ク
富士ヲ甲斐ニテ富士百勇功記ニ大嶽トよめる中ようらし 西云丁卯日記ニ
ナレハヨリノトヨハヘキヲ 日記ヨ 町野よこあるみハさらしくらう

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13
ガラス使用

つく

筆業紀行　あつとうれこノサ
机上持水校　みをそ四ゝ

つく

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

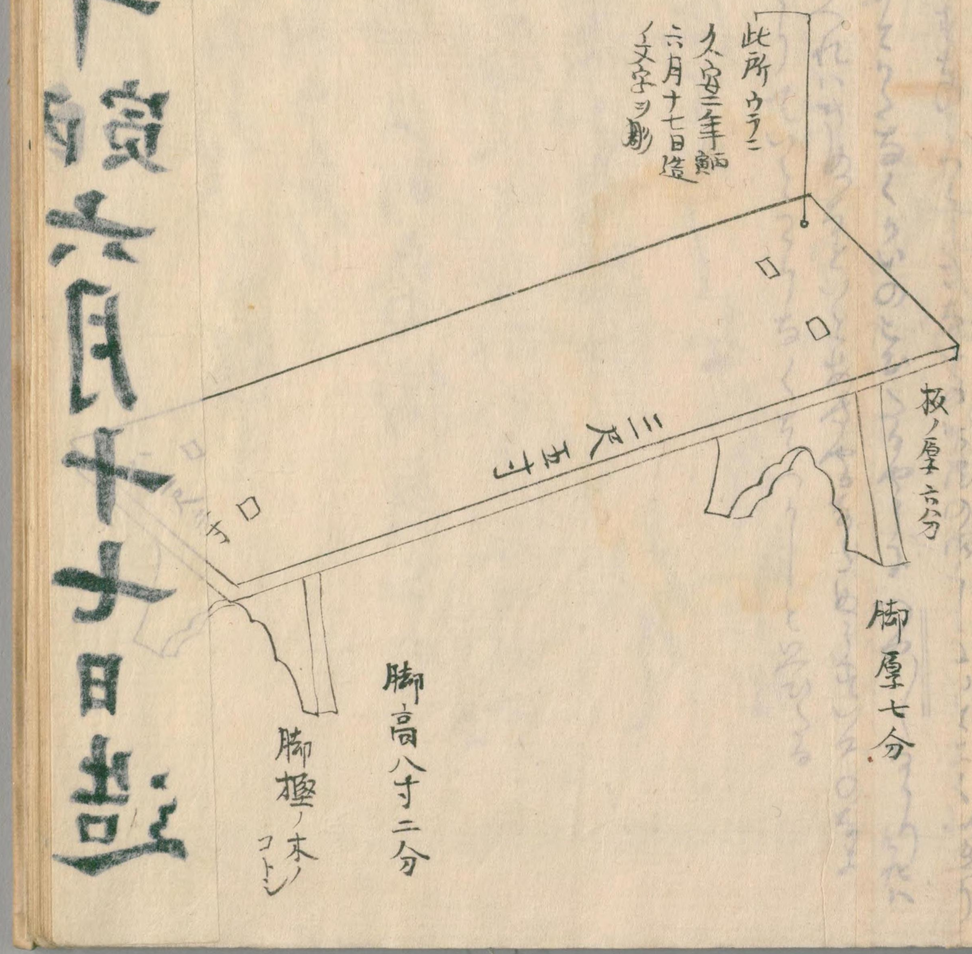
ツクノ名七

ツク　釿　京ノ十六
ツクヅクシ　京ニノ九ニ
釿仮名　杉ハ
ツク　繪ツク　京ハノ二
土筆ノ赤貝合食ノ葉ヌ文モ
ツクヅク　ボウシ　京ニノ九ニ京二下ノハ
ツクリ皮　京十三ノ七
案ト机　古今著
筑紫琴　延喜式　祝詞　京三ノ五五
作物　京ニノ五五
ツクリ太刀　ツモカタシ　京十二ノ一オ
頸史大祓五ノ七カ
ツクリ竹　葛絲ノ末ノ下ハ五
妻ヲ去　長一八ヒヌ一九八
妻モツヘシキ　後下五

ツノ名　京二ノ廿九
玉ハ張ノ長サ七尺ヨリ下ヘカラス
ツクヅク　京ニノ九ニ
机　飛鳥ノ古イ繪ニモアルモノ
ツクモ　指等左重　京ニノ十七
筑紫琴ノ歌舞音樂異名下ノ四八オ　琴ノ画物
ツク　メンヨウ　雅名　竹及九
筑紫長刀　我祀一ノ廿五
案ト机　古今著
筑紫琴　延喜式　祝詞　京三ノ五五　柳原ノ寸二分
作リ太刀　ツモカタシ　京十二ノ一オ
頸史大祓五ノ七カ
ツクリ竹　葛絲ノ末ノ下ハ五

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13
ガラス使用

桐木古九圖　伊勢洞津醫　庭田生安藏



久安二年酉六月十七日造

土左日記　ちろさ　つく　いとをかしうもあるかな　灯　宴　終　こゝろのまゝをりゐとゝろ　五年　一去年見之秋又月夜右口西　相見之　姓名　弥年　放　同集七　水　夜　之　手　清　可見　春　四月　夜　鴨　夜　遥　深　右　ゝゝ　あ　ゝ　氏　ま　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　夜　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

つや

（半）

邸ツヤ
家和十ノ十二ウ

つや 風雨甚シウとるゐをくるつやをものうらやく 宇治殿ノ六ヲオ ありしこぶあそうるるくらいのこころやうよ つやつれ 風一ノ上四ウ ひさるこしのつれいさめをとてあさるもぬしいろのをよ ようるるこころいつやくをかうしてそうるるくをつうとろる

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13
ガラス使用

ツヘ方刀 ヨろナミ
妻ヲ出入 ろそノ十
妻戸 ろたノに 新光十分るる下ハセニ
ツヘカクレノ星 ろセノ廿九 ツヘヲリガケ ろる下ハセニカヤ
ツヘ重ネ ろ六ノ卅 新金
ツヨル ろナノ心ミ
ツヘヤル ろナノにミ ツヘヨリカケリノ杉 ろ十ノ三五 童孔ろり
妻ク七サ ろハノハウ ツヘガケ 小を 妹二生
ツヘタラ廿年 ろ八ノ九カ 石に三テ雪中に用ワラテ作ヒり
妻黒 ろナノ六 小木 白ニノるセカ
妻白 ろナノ六
ツヘキリナカシ ろ八ノセナ
ツケ 学苗 ろミノにこ ツケカミ 阿髪 新装下サ
ツケズさ ろナミナカハ 石ノイろし 白ニノ百二カ
付墓 ろ九ノ五二 付竹 白ニノ五十三カ

ツケ 黄楊 新光ノ廿六
ツケの岸
ツケの枝
ツケのこ形
ツケのこと
黄楊の小枝さして塚をかざる事
新撰地名の事のうち
ツケ

(ツケ)
試石 白ニノ五二
ツケカミ 阿髪 新装下サ
付墓 ろ九ノ五二
付竹 白ニノ五二カ
ツケ苗 ろこノにこ
ツケ 黄楊 白ニノるセ六

国立国会図書館　タイトル『語箋』 請求記号 831-13
ガラス使用

付状 ㇷ゚セノミニヌミシ

附物 後下バ五吃 放条ノ一

ツケ物 用文段上ノ字ヲ清位ノ濁律ト叫ビ又ハ

ツケ物 義訓記ニ義従ヲ奏ト訓ノ契約ノ語

ツケ物 集徒ニ用リ 四曲聲 調 園 続ル枠 及作ル楽ニ

ツケ物 唱歌ニ 種々 聲 徴所ニ矢集ル ト

ツケ物 唱歌ニ ㇷ゚ヨノ如キ

(ツケ)

(つゞき四左罫)

つゞき四ウ下段

つゞくハあり

奴僕(ツヅク) 和二ノ十

躡(ツヅキ) 和三ノ七十

ツヅシ

頭風和三ノ九十

鶺鴒(ツヅリ) 和十八ノ十

杜若(ツヅラカサ) 和七ノ十九十

ツヅテ 月條一ノ七オ 粒打ン

ツヅキリ 両新記補注上サシ

桐ノ花ノ形ノ丸リツヅ見故ニート云今五七ノ桐ト云 紋ヤ

ツヅキリ焼付 ㇷ゚ヨノサシ

ツヅキレ 胡琴頭 ミヽセ上ノ六 ㇷ゚ヨノ如キ

王造 螺(ツヅ)膳

つゝの字 ㇷ゚ヨノ如キ

国立国会図書館　タイトル『語箋』 請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

つて固まることやつてきて　次ノ約八多下二段ノ附

順　山桜木の下ゆしまふそのさつてよもる

動　風雅　多経へ冬るあるしのつてのるる

国性　今二八九

つて

国立国会図書館　タイトル『語箋』請求記号 831-13
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

つきくさ 四左季格 園須 因格 堂名 園

つきしろ 四望座

つきうら 四中座 常称 為居 物語

胖 和ニ二十

鮮ノ骨 南蛮 和ニ九十八

鳩 和十ノ十七丁

鮧 和十ノ十三丁

及已 和七ノ七丁

槻 和七ノ七丁

桃花馬 和三五丁

揃白馬 和十ノ二丁

椿薫馬 和十ノ二丁

調布ノ 和十ノ十七丁

頭中 和二ノ十八丁ウ十三ノ三丁

鴨頭草 和四ノ十五丁

鸚 和十六ノ二丁

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

月の中の兎
月の桂
かつら男
さくら男
月人男
月まつる男
月まつる
月まつり
月の都
月の宮
月の中なる草 蟾蜍なる
月なるそこなる人
月の桂をそ
月のかつらをそこなる
月もの
月の者の如く
月の者
月のあるもの
月のあるものの如きを好む
月のあるもの
月そのものゝうつるあき
うつるあめ
うつるあめ
絵巻のあるもの
月見
今もち

月待ニハ 五月十九日 月ノ出ヲ待ツ事也 月ノ出ヲ待ツ事ハ 月ノ出ヲ待ツ事ハ 月ノ出ヲ待ツ事ハ

付状 ㊀九ノ廿二ヌ廿三

ツフ つぐみ 砌を下ノ六 其まゝそろそろまゐて

ツフ 晦ノ枝 日行廿七カ

ツテ 回廊 今二八九

ツエ

ツカ

ツキ 朝の十五日廿日御礼 今八九

頭中 ㊀九ノ廿ヌ廿

第上下 ㊀五ノ七 着衣脱ぐ

謎目の印 ㊀

第父 ㊀十ノ廿二

月形 ㊀九ノ九 通る十二ノ五

月ノ色人 松十二ノ心

月代 ㊀二ノ廿七ヌ廿四オ

付物 ㊀九ノ廿二ヌ廿三

ツブ 桐挽付 ちさこノ廿六

ツブテ 尾張ノ七カ 荘右ノ

晦ノ念仏 日行廿七カ

調布 調ヌノ部

結紐 ㊀二ノ八 結ぶ

毎月月 ㊀

月カギノ枝 月カミノ一名 ㊀甲記二ノ七カ 同上ヒカク

月次の御礼 ㊀十三ノ廿三 ㊀

月琴 ㊀十ノ廿二

月琴硯 美術協会委員 ㊀

月ノ歌の部 ㊀二ノ廿ヌ廿四オ

月 モカミノ一名 ㊀甲記二ノ七カ ヒカク

月代 ㊀二ノ廿七ヌ廿四オ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

ツメ 爪甲 和三ノ八下
ツメノヨラ
ツメ 和十八ノ廿三下

ツメイン爪印
ヲスル下ニ生ズル印章ナリ

ツメ 爪判 漢 七八 長一八五
ツメタイゾロ ヒヤキ 矢ニノ巳ニ
ツメタオシ ヒヤシルシ 矢ニノ巳ニ
ツメタモノ ナマス 矢ニノ巳一
爪無鉄砲 今ハ十
ツメにうキ 矢一ノ八
隙間ノ 貴人ヘ物ヲ持参ノ ニ退ル作法ヘキリト身ヲヒラキ一ハリテノサテニヲヲヲル

爪ニ紙ヲ
物ヲ包ミ
ヲ

ツミ

つゝちかの四階花
つゝち四号の四半
倉鶴 四十八ノ十二
柘 和七ノ九ウ
桂礎 和十ノ事
鐔 和十三ノ八ウ
柘 和名ノ十三ウ
鍔 和名ノ十三ウ

つゝ柘
つゝちのすま
苞の折 葉の折

古砂草葉 盛方 こけむせる
さゆるつゝち

ツミ 鳥生訓 見百七
ツミニ 与古ノ八ミ
柘ら 柘ツミ 一名野梨 表草下
雀鷹 与古下十

ツミ
ツミ田

ツミり艸草 ものぶせ
ものあぶせ田制

54

ツヒジ 躑躅 科

十字 科ノ十八丁

厨子 科ノ十ノ十丁

辻占 かのつじ

厨子ニ天王図
国華亭ノ次

厨子	六ノミ半	彩飾	二階ノ一	蓋ノ一	彩色ナシ	又土ノ
厨子棚	黒棚置物	没	一ミ	長三五ニ	六ノミ	
辻	〃ニ	六十ノ廿				
辻総ノ鞦	六ニ半	六ニノ廿五				
ツヒガ花	大ニナ	六ニノ廿九図アリ	地浴スレテ所々ニベニノ色トリ母丸心又貝順ニ表花次ノ			

ツヒウ 辻占 まねぶの八五ハ
ツレギミ 辻君 まねぶの八五ハ
ヅレダナ 厨子棚 まねぶの八五ハ
ツヒバン 辻番 まねぶの八五ハ
ツレテ 一対ル まねぶの八五ハ
ツヒウラ 辻占 まねぶの八五ハ

三十三夜 〃 まねぶの八五ハ 桂のめぐり東方より出る月 まねぶの八五ハ

[illegible] まねぶの八五ハ

[illegible] 紙 弛 まねぶの八五ハ

人の [illegible] まねぶの八五ハ

[illegible] まねぶの八五ハ

[illegible] まねぶの八五ハ

増山井 陸奥ノ名所 まねぶの八五ハ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

杖 和三ノ九十又缶ノ十九丁
まろかれ

[総説] 第二条 [定義] 杖のふるよりませ代ふるよりまで
杖いろをもちつくろふ鉄をそそぐ 多治比家 [参考]

[第二条] 杖のふるよりませ代ふるよりまで
[参考] 一うつくるうるきの杖を
[定義] よるをつてうつくるうるきの杖をもつてものまうす
[参考] 古へうこの山の杖ハ山人のものまうすうるきの杖

礼 王制養老之礼五十杖于家七十杖于鄉八十杖于國九十杖于朝

杖俗 [注] 五十ヲ云フ

後漢 礼儀志 民年七十者授杖以鳩鳥飾 [注] 敬老人如鳩不噎也

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13
ガラス使用

つひやす 四左雲後
つゐやす 四やすら後 圓春
ツヒ 門 和三ノ八十
ツヒ 甲 圓子 和十九ノ四十
ツヒノフタ 角 蓋 和十九ノ八十

欲(ほし)他(ほか)分(わけ)措(はなち)已(すて)物(もの)是(これ)流頭(ながれ)在粉(こ)栗粒(ツヒ)以咬(かみ)撮(とる)者(もの)
粒(ツヒ)ツタ 粉(こ)レ 咬(カミ)ハムヨリモ 撮(トル)ヌカ ニテウ

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『語箋』 請求記号 831-13

ガラス使用

831
60
13

国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『語箋』　請求記号 831-13